

中学生の「税についての作文」 で総務大臣賞

正田 権さん

全国から応募があった44万5945点の中から、県内応募者で最高賞となる総務大臣賞に選ばれた。夏休みの課題としてまとめた作文を応募し、「まさか受賞するとは思わず驚いた」と率直な思いを口にする。タイトルは「山林と都市を税でつなぐ試み」。自身とも関わりが深い税金として取り上げたのは、森林の整備や保全に充てる資金「森林環境税」だった。

幼少期から登山に親しみ、中学2年時にはマウンテンバイク(MTB)にのめり込んだ。「森が雨水をろ過し、土壌に水を蓄えている。自分には直接関係が無いように見えても、自然と生活が繋がっている」とことは、山林に入ることでも実感した。

檜形山の山道をMTBで下



す。雨煙ダムの上流側に堆積した土砂は、この崩れやすい岩石が実際に崩れてきてしまったものです。

◇早川町早川集落で計画中の土地改良事業では、雨煙ダムの土砂が盛り土に使われるとのこと。2019年に

10代の意見

苦しむ人进行
支援にも関心を

◇私は小学校で花の種にメ

自然保護 自分たちの手で

つたときに目に付いたのは、朽ちて放置されたままの倒木。山道整備などMTBを通じた地域貢献活動に取り組む団体の活動にも参加した。「森林環境税と説はみんなでお金を出し合い、豊かな森林を守る仕組み。自然を守る税金は、自分たちの生活にも戻ってくるもの」と話す。

学校生活では、科学部やギター同好会に所属し、幼少期から続けているバイオリンは、演奏家を目指し日々練習に励む。多分野での活動も「自分の中ではつながっている」という。「山を登りながら、樹林帯を抜けて後ろを振り返った瞬間、ふっと気持ちも明るくなる瞬間がある。そうした感覚を、音楽でも表現したい」

音楽活動と自然をつなぐ取り組みとして、「いつか山小屋でコンサートを開きたい」と構想が膨らむ。「普段、森林に足を運ばない人も音楽をきっかけに呼び込み、自然環境を守るの自分たちだと思ってもらえるきっかけ作りができた」と、控えめに笑った。

〈戸松優〉

ひきた・かいさん 山梨学院中3年。南アルプス市在住。15歳。

ッセージを添えて風船を飛ばしたことがある。その数週間後、他県の小学生が種を拾って育て始めたという手紙が学校に届いた。私は、私たちの活動が遠くにいる誰かに届いたという事実がうれしかった。

鼻めがね

派閥解散式
パーティーはしません

岸田総裁
(北杜・明野のひまわりさん)

文芸ひろば

短歌

勝沼歌会

年末の近づくにつれて思うことと全く今年も早かったなあ

渡辺 忠義
先人の逞しさと知恵に生かされて今あるわれのふるさと紀行

山口美智子
霜月に黄の花咲かず蒲公英を珍らしくみる耕運機の先

内田 明子
「おっぱいじめてもよい」

「文芸ひろば」応募方法

▽各団体の投稿を順次掲載します。1回に1人1首(句)で10首(句)以内にと絞って投稿し、代表者の住所、氏名、電話番号を明記してください。

応募作品が多い場合は掲載できないこともあります。作品は返却しません。「重複投稿、類似作品投稿は厳禁します。作品は紙面のほか、紙面